

【樹木の部屋】

サーモンベリー（バラ科キイチゴ属 *Rubus spectabilis*）

和名：サーモンベリー

別名：

英名：Salmonberry

バラ目 落葉性低木

原産地：北アメリカ

花言葉：思いやり

花色：赤、桃、紫



←写真-1 サーモンベリー

撮影日：2014年6月16日

撮影場所：ケチカン(アラスカ)にて

撮影者：M さん

↘ 写真-2 サーモンベリー(花後)

撮影日：2014年6月16日

撮影場所：ケチカン(アラスカ)にて

撮影者：M さん



← 写真-3 サーモンベリー(葉)

撮影日：2014年6月16日

撮影場所：ケチカン

(アラスカ)にて

撮影者：M さん



カナダのバンクーバーからアラスカ州の西海岸を北上してウィッティアまでの氷河を巡るクルーズ船での寄港地ケチカンでクルーズを下船。埠頭から市街に入り、クリーク通り(昔ながらの家屋を利用した小さな商店街)散策中に見かけました。

サーモンベリーの名前の由来は、「サーモンが遡上してくる時期に赤い実を付けるから」、「サーモンの卵(イクラ)に似ているから」と言われているそうです。

北アメリカの西岸、アラスカ州の西中部からカリフォルニア州の湿り気のある森や流れの縁などに生育しているそうです。鋭いとげが生えている直立した茎を持つので、手入れの際には注意が必要だそうです。

葉は3出複葉で小葉は卵形、頂小葉はほかの小葉よりも大きく、小葉の縁は重鋸歯または鋸歯と浅裂します。春の終わりから初夏にかけて、明るいピンク色から濃赤色の花を咲かせ、果実は小核果の集まった集合果で、黄色から赤色やサーモンピンク色に熟し、食べることができます。果肉は甘くジューシーで、爽やかな酸味が楽しめ、生食やジャム、パイに利用できるそうです。先住民の人々によって、サーモンと一緒に、あるいはウリカンという鰯くらいの小魚の油脂やイクラと混ぜて食べられていたそうです。

日当たりと排水の良い場所を好み、寒さにも強いので容易に育てられます。赤やオレンジなど様々な色合いの品種があり、美しい花と美味しい実が魅力的です。地下に細い匍匐茎を伸ばし、地下茎から花枝を立てるのが特徴で、幌向苺(ホロムイイチゴ、*Rubus chamaemorus*)と似ていますが異なる品種だそうです。〈ちょっと一言〉

〈ちょっと一言〉

ホロムイイチゴ(バラ目バラ科キイチゴ属 *Rubus chamaemorus*)

和名：ホロムイイチゴ(幌向苺)

英名：cloudberry

和名は、北海道岩見沢市の幌向地区で発見されたことにちなみます。果実はコハク色で、食用になります。日本ではクラウドベリーの英語名でも知られています。

北ヨーロッパでは果実を生食する他、ジャム、ジュース、リキュールなどに加工され、エスキモーは貴重なビタミンC源として果実を採集し、保存食を作るそうです。

スカンジナビア諸国では珍重され、フィンランドの2ユーロ硬貨にはホロムイイチゴがデザインされています。